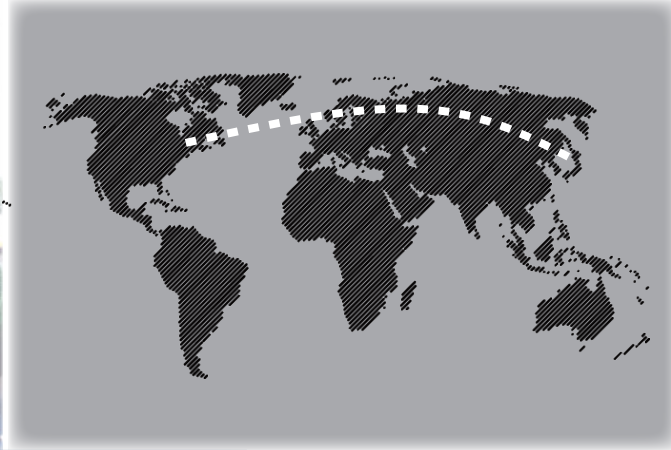


# 東京カンファレンス 2016 報告書



2016年4月10日  
HCAP 東京大学運営委員会 10期

## 本報告書について

本報告書は、HCAP(Harvard College in Asia Program) 東京大学運営委員会 10 期が企画・運営した「HCAP 東京カンファレンス 2016」について報告することを目的としたものである。

## 目次

- 001 本報告書について
- 001 目次
- 002 代表挨拶
- 003 HCAP とは
- 003 HCAP 東京カンファレンス 2016 概要
- 004 HCAP 東京カンファレンス 2016 協賛・協力
- 005 プログラム詳細報告
  - 1 日目 (3 月 12 日) ウェルカムパーティー
  - 2 日目 (3 月 13 日) バケットリスト企画 / 高校生交流企画
  - 3 日目 (3 月 14 日) 東京オリエンテーリング
  - 4 日目 (3 月 15 日) 「外国にルーツをもつ子どもたち」と日本の公教育
  - 5 日目 (3 月 16 日) 自然災害からの復興を考える / アメリカ大使館レセプション / 東大生交流企画
  - 6 日目 (3 月 17 日) 東京フィールドワーク / 東京東部ツアー
  - 7 日目 (3 月 18 日) フリーデイ / 鍋パーティー
  - 8 日目 (3 月 19 日) 鎌倉
  - 9 日目 (3 月 20 日) フェアウェルパーティー
- 019 HCAP 東京カンファレンス 2016 総括
- 020 HCAP 東京カンファレンス 2016 会計報告

## 代表挨拶

3月12日から3月20日にかけて、HCAP 東京大学運営委員会にとっての10度目の東京カンファレンスを運営しました。これは一重にこれまでご協力・ご協賛いただいた皆様のおかげであり、代表して深く御礼申し上げます。

今年度の東京カンファレンスでは、理念として「人生に爪痕の残るカンファレンス」を目指しておりました。学術企画においては” Equality, Tolerance and Freedom : The Effect of Culture and Policy on a Globalized World” というテーマを追求し、移民問題を扱う企画や、東日本大震災からの復興を扱う企画を行いました。両企画共にディスカッションの時間を多く取り、問題の当事者として企画に関わることができていたかと思えます。文化交流企画におきましては、日本の代表的な観光地を私たちがガイドとなって回ることや、私たちが知らないようなコアな日本を見て回ることをしました。

9日間を振り返ってみますと、今回の東京カンファレンスは私たちにとっても、そしてハーバード生にとってもかなり満足度の高いものになったかと思えます。メンバーの多くが、実際に「人生に爪痕の残るカンファレンス」になるだろうと強く感じております。昨年の東京カンファレンスでは、参加者であるハーバード生の視点に立ったカンファレンスの企画・運営という要素が欠けていたという反省がありました。今年はそれを強く意識し、企画段階でハーバード生を強く意識しながら、当事者意識を持ってもらうように準備をしました。その準備が功を奏したと言えるかと思いません。個人的な体験としましては、今回のカンファレンスを準備・運営・参加する過程において、日本に潜む魅力に心を打たれました。伝統文化の美しさを再確認し、ソフトパワーとしての現代文化が海外においても大きな影響力を持っていることを体感し、東京の街としてのポテンシャルを理解しました。1月にハーバードカンファレンスに参加した際は学ぶ場としてのボストンに強く惹かれましたが、東京にはそれ以上に大きな魅力があると確信しました。全体的な反省点としましては、私たちがカンファレンス中に参加者としての自分たちと運営者としての自分たちをしっかりと切り分けられていなかったということです。何ヶ月もかけたカンファレンスを自分たち自身が楽しむことも肝要ですが、運営者として守らなければならない部分が曖昧になり、細かな運営上のミスが目立ったように思えます。

今後私たちは、今回の東京カンファレンスを企画し実行したという稀有な経験を還元していきたいと思っております。それは、次代の東京大学運営委員会のメンバーには勿論、他の東大生や、他の大学生、少し大袈裟になりますが日本全体にも還元していきたいです。末筆となりましたが、改めてお世話になった方々に深謝いたします。今後ともご支援・ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

HCAP 東京大学運営委員会 10 期代表  
高橋知之

## HCAP とは

Harvard College in Asia Program、通称 HCAP(エイチキャップ)は、ハーバード大学に本部を置く、ハーバード大学とアジア各国のトップ大学生との交流を目的とした学生によって運営される団体である。単なる国際交流に留まらず、毎年2回開催されるカンファレンスでの学術企画や文化企画、交流企画を通して、深い相互理解を達成することを目指す。

HCAP のカンファレンスは、各国の支部の学生によるハーバード大学訪問と、ハーバード生の各国への訪問の二つに分けられている。日本では、HCAP 東京大学運営委員会が2005年以来10年間にわたりハーバード本部とパートナーシップを結び、東京でのカンファレンスを開催している。

本年度の東京カンファレンスでも、個性豊かな東京大学の一年生14名が、「人生に爪痕を残すようなカンファレンス」を作り上げることを目標とし、各人の力を結集させてカンファレンスを実施した。

## HCAP 東京カンファレンス 2016 概要

主催 HCAP 東京大学運営委員会 10 期

日程 2016 年 3 月 12 日(土)~3 月 20 日(日)

参加者 東京大学生 14 名、ハーバード大学生 10 名

テーマ Equality, Tolerance and Freedom: The Effect of Culture and Policy on a Globalized World

## HCAP 東京カンファレンス 2016 協賛・協力（敬称略）

協賛 株式会社 ベネッセコーポレーション RouteH

駒場友の会

在日米国大使館

株式会社 プレジデント社

後援 日本国外務省

在日米国大使館

顧問 東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻相関基礎科学系 松田恭幸 准教授

### 企画協力

・『『外国にルーツをもつ子どもたち』日本の公教育』企画

東洋英和女学院大学教授 滝澤三郎

法務省入国管理局審判課長 君塚宏

AUN-JAPAN(在日ビルマ連邦少数民族協議会)議長 ゴーミンカイ

早稲田大学教授 ファーラー＝グラシア

・「然災害からの復興を考える」企画

復興庁参事官補佐 榎本英之

NPO 人間の安全保障フォーラム元代表 内尾太一

福島大学大学院生 サインブヤン オドバヤル

・「東京フィールドワーク」企画

東京急行電鉄株式会社都市創造本部開発事業部渋谷開発一部 味澤俊

### その他ご協力

東京大学教養学部 特任准教授 岡田晃枝

東京大学教養学部等学生支援課 学生支援係 石井ゆみ

佐藤寛也

東京大学 社会連携部 渉外・基金課 三留智人

国立オリンピック青少年記念センター

DHC コミュニケーションスペース

ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

## プログラム詳細報告

以下プログラム内容を時系列に沿って紹介する。

◀3月12日▶

ウェルカムパーティー

day1

【日時】 3月12日（土）19:00-

【場所】 ベストウェスタン横浜 ダイニングカフェ アレッタ

### 【企画目的】

- ・東京カンファレンスの始まりを共に祝い、9日間共に過ごすハーバード生との絆を深める。
- ・「本場」の寿司が食べたいというハーバード生の願いをかなえる。

### 【企画内容】

手巻き寿司を食べながら東大側とハーバード側それぞれの自己紹介をした後、ユーモア溢れるオープニングビデオを上映した。手巻き寿司の作り方を教え、寿司のネタの話などを行っている間に会話が弾み、初対面のメンバーも気軽に輪の中に入ることが出来た。



### 【総括】

前日日本に到着したばかりであったにも関わらず、朝から横浜観光をしていたハーバード生はとても疲れているように見えたが、色鮮やかな魚介と酢飯を目前にしてとても嬉しそうだった。普段日本食を食べるときは必ず日本食レストランを訪れるハーバード生にとって、自分で海苔と米を手にとりネタを選ぶという経験はとても珍しく、新鮮であったようだった。時間をかけて完成させたメンバー紹介入りの短編映画風オープニングビデオも盛り上がり、場をどのように和ませられるか毎日頭を悩ませて良かったと心から感じた。カンファレンス初日であるにも関わらず、ハーバード生と東大生の双方が互いのことをよく知ろうと会話を楽しみながら夕食を共にし、翌日以降の企画への期待が高まった。



&lt;3月13日&gt;

バケッリスト企画

day2



【日時】 3月13日(日) 11:00-12:30

【場所】 DHC コミュニケーションスペース

## 【企画目的】

- ・ハーバード生に東京カンファレンスで実現したいことを聞き、その実現のために全力で手助けすることで、ここでしか達成できない体験をともにする。
- ・二日目の朝、まだ東京について間もない時に東京について少しでもイメージを持ってもらう。

## 【企画内容】

ハーバード生に東京でしたいことを、東京に関するパンフレットやガイドブック、私たちのお勧めなどを参考にしながら、自由に考えて紙に書き出してもらった。その後はハーバード生と東大生がペアになり、可能な限り多くのアイデアに対し東大生が手助けしながらカンファレンスでの実現のプランを立てた。

## 【総括】

東京出身でない者から見た東京はとても魅力的に映る。ハーバード生にとってもそうであると考え、せっかく来たならば全力で後悔の無いようにすべて経験してほしい、そしてそのコーディネートの手助けをしたいという思いから生まれた企画であった。各人のバケッリストには個人のキャラクターが現れており大変興味深かった。例えば、「博物館に行きたい」というハーバード生がいた。彼は歴史にとても興味があって、日本の戦国時代についての授業も取っていたと話してくれたが、彼にそのようなイメージがそれまで全くなく、驚いたということがあった。ハーバード生にとって東京のどのような部分が魅力的なのか想像力を働かせながら一年間準備してきたが、実際に彼らと話す中で、彼らがどのような興味を持って日本に来たのか、何が彼らの心を踊らせるのかを知ることができて、そのような彼らの視点は新鮮だった。

ハーバード生は東京についてほとんど予備知識がないまま来ていたが、この企画により東京の全体像が見えたようだった。これに加えて各自の希望に沿った方向でフリータイムを進めることができ、カンファレンス全体の充実度が高まった。



## 高校生交流企画

【日時】 3月13日(日) 16:00 - 19:00

【場所】 T's 渋谷フラッグカンファレンスセンター



### 【企画目的】

- ・ 高校生の既存の選択肢を問い直し、自分の将来について再考する機会を提供する。
- ・ ハーバード生と高校生の交流の機会をつくる。

### 【企画内容】

高校生とハーバード生、東大生が小さなグループに分かれ、ディスカッションを行った。ディスカッションのテーマは、「自分の近未来を見つめ直す」「ハーバード生と議論するー東日本大震災から5年目を迎えてー」の2つであった。

「自分の近未来を見つめ直す」というテーマで行ったディスカッションでは、まずハーバード生と東大生が課外活動やボランティア活動を含めた自らの高校生活や大学生活を紹介し、高校生が今後5年間の自身の将来設計を発表し、それに対してハーバード生と東大生はアドバイスや質問をし、また自らの将来設計についても共有した。



「ハーバード生とフラットに議論するー東日本大震災から5年目を迎えてー」では、東日本大震災を切り口に、ボランティアなどの社会奉仕活動の役割と意識について議論した。復興において大きな役割を果たすボランティアだが、震災から5年が経った今、その在り方を問われている。特に多くのハーバード生はボランティア経験があったので、彼らの経験を聞きながら、東日本大震災の場合と照らし合わせ、議論を行った。

### 【総括】

参加した高校生及びハーバード生、東大生は貴重な交流の機会を楽しんでいる様子であった。

「自分の近未来を見つめ直す」ディスカッションでは、高校生の将来設計をともに考え、将来における多くの選択肢やキャリアについて話すことができた。ハーバード生や東大生のなかでも、将来設計をはっきり決めていない者もあり、私たちにとっても高校生の視点は大いに刺激となった。

また、「ハーバード生とフラットに議論する」ディスカッションでは、ハーバード生がこれまでにしてきたボランティア活動について詳しく聞くことができた。私たちにとってボランティアはあまり身近ではなく、一種の抵抗のようなものを感じている者も多く、ボランティアは偽善なのかといった議論を想定していた。しかし、ハーバード生は純粋にボランティアに喜びを見出して意欲的に取り組んでいて、例えば、一人は自分がボランティアで子供にダンスを教えていることを本当に楽しそうに話しており、ボランティアを狭く捉えすぎていたことに気づき、思い切ってやってみることが大切ということをもっと実感した。

企画終了後、「ハーバード生と話せてよかった」と高校生が嬉しそうに話してくれた時や、ハーバード生が時間を過ぎるまで高校生と話しているのを見た時には、この企画ができて本当によかった。



&lt;3月14日&gt;

地震体験、東京オリエンテーリング

day3

【日時】 3月14日(月) 9:00-22:00

【場所】 本所防災館、浅草、秋葉原、オリンピックセンター

## 【企画目的】

- ・ 自然災害から復興に関する学術企画を前に、東日本大震災をはじめとする地震に対してよりクリアなイメージを持つ。
- ・ ハーバード生と共に観光を思い切り楽しむとともにチームに分かれて真剣に勝負する。

## 【企画内容】

本所防災館を訪れ地震についての映像視聴や震度7の地震を体験した。その後浅草に移動し、観光をしながら4人のウォーリーの格好をしたメンバーを探す Where's Wally in Asakusa という企画と、「おみくじの大吉の写真を撮れ」「人力車を引いている人の写真を撮れ」などのお題を出し、浅草の一風景を切り取る写真を撮ってもらう Photo Scavenger Hunt という企画を行った。次に、秋葉原では、日本のオタク文化の代表的なものの一つであるメイドカフェを訪れた。また各チームの代表者一人がコスプレを行ってパフォーマンスを行い、the most kawaii delegation を決める対決のために衣装を購入した。誰が代表になるのか、何を着るのか、どんなパフォーマンスを行うのかなど話題で盛り上がった。

夜はオリンピックセンターに戻り、東大生が作成した様々なミニゲームを行い、順位を発表して一日を終えた。東京側が作成した謎を解くゲームでは両大学の学生が真剣に取り組み、最後の解答に辿り着いたチームは歓喜の声をあげていた。最後に、the most kawaii delegation を決めるコスプレ対決が行われ、総合順位を発表して終わった。



## 【総括】

「ハーバード生と徹底的に遊びたい。」ハーバード本部への企画書提出前夜、爽快感を覚えるような議論の中でこの企画は生まれた。その後、「ほとんどが年上のハーバード生は対等に楽しんでくれないのではないか」、「日本人が楽しいと思うことを果たして外国人も同様に楽しいと思うのか」など、顔の見えないハーバード生とどのように最高に楽しい一日を過ごせばいいのか。答えの見えない問いに答えるために、この企画は紆余曲折を繰り返していた。ハーバード生と東大生の対抗試合を行うこと、一日中かけて様々なギネス記録をとり続けること、キャンパス内で運動会を開催すること。この企画の理念を掲げ、具体的な形式、スケジュールを詰めてはまた理念に立ち戻れることを繰り返し、最終的に東京を舞台にして対決するという形式をとった。

雨の中での開催ではあったが、転んでしまうほど夢中になって浅草を駆け回るチームや、コスプレ対決のパフォーマンスで寸劇を披露するチームがいるなど、それぞれの対決が大盛況となった。チーム内の絆も大いに深まり、充実した交流の場であった。

徹底的に遊ぶ中でも、様々な気づきや学びがハーバード生と東大生の中でみられた。例えば 浅草では、「無宗教とよく主張する日本人は何を信仰しているのか。」「仏教と神道は何が違うのか。」など様々な質問をハーバード生から投げかけられた。そして、メイドという職種に対して疑問を唱えるハーバード生もおり、活発な議論が行われるなど予想外の盛り上がりを見せる部分もあった。どのようにハーバード生に爪痕が残るような1日にできるのか不安であったが、企画終了後の夜、「ディズニーランドよりも、子供の時のどんな思い出よりも楽しい時間だった」というメッセージがハーバード生から送られてきたのを見て、涙をこぼす東大生もいた。

### ◀3月15日▶

#### 『外国にルーツをもつ子どもたち』と日本の公教育

day4



【日時】3月15日(火) 14:00-18:00

【場所】東洋英和女学院大学六本木校

#### 【企画目的】

- ・日本の外国人受け入れについての現状と外国人の子どもたちに教育についての現状を知る。
- ・各自の教育体験やこれまでの外国人とのかかわり方について共有する。

#### 【企画内容】

有識者によるレクチャーと学生同士のディスカッションの二部構成であった。

レクチャーでは、元 UNHCR 駐日代表の滝澤三郎教授より” Japan’ s Migration Policy:

Contexts and Variables” と題して日本の「移民政策」について包括的なお話を伺ったのち、法務省の君塚宏様より、日本の外国人受け入れ政策について行政の立場からご解説いただいた。続いて、ビルマ連邦(現ミャンマー連邦共和国)出身の難民で、現在 AUN-JAPAN(在日ビルマ連邦少数民族協議会)議長を務めていらっしゃるゾーミンカイ様に、日本で暮らす外国人当事者としての視点から、ご自身が難民申請をなさった経緯やご家族の状況などについてお話いただいた。最後に、ファーラー＝グラシア教授より” Multicultural Selves and Cosmopolitan Belongings: Chinese Immigrant Children Negotiation Identity in Japan” と題して、ご専門の国際移動論の観点から、特に中国系の人々の日本における状況についてご講演いただいた。各ご講演者のお話が終わったあとは、質疑応答の時間が設けられ、「高度人材を獲得するために日本政府はどのような差別化を図ろうとしているのか」「外国人の子どもたちは日本の公教育においてどのように受け入れられているのか」など活発に質問がなされた。

その後のディスカッションではいくつかの小グループに分かれ、自身の体験を共有し、日本の公教育のあり方について考えを交わした。両親が経済的に困窮している難民であっても自身はハーバード大学入学を果たしたメンバーから奨学金の充実を目指すべきだという意見が出された一方、そのような処置ではごく一部の者しか救えず社会経済的な構造の矛盾を隠蔽することになりかねないという反論がなされ、社会的移動を巡って根本的な議論がなされるグループもあった。

#### 【総括】

「移民を入れるか / 入れないか」といったいわば「入り口」の議論に終止する現状とは打って変わって、本企画では、実際に移民が入ってきた後の現実的な施策について考えを巡らせることとなった。レクチャーにより日本の移民問題を様々な立場から捉えている方々から網羅的に情報をインプットされ、ディスカッションでは多様かつ多角的な観点からの思考を要求された東大・ハーバードの双方のメンバーからは、これからもこのトピックについて勉強を続けていきたいとの声が多く聞かれた。実際に移民であるハーバード生の一人が時に差別的な質問を受けるという話や自分のアイデンティティがどこにあるのか分からず苦しんでいる話を共有してくれて、移民大国と言われるアメリカで英語が流暢で一流大学に行っても様々な違和感を抱えつつ生きていることを実感できた。

企画終了後も、自由時間に集まって議論の続きをしようと言っているグループも見られるほどで、移民大国のアメリカの学生にとって日本の移民問題を議論することの意義が何なのか考え抜き、ディスカッションのテーマを工夫し、講師の方と綿密に打ち合わせを重ねた結果、期待していた以上の成功に終わり、大きな達成感を得た。



3月16日

自然災害からの復興を考える



【日時】 3月16日(水) 11:00-15:00

【場所】 American Center Japan 会議室

## 【企画目的】

- ・ 東日本大震災からの復興を切り口に、世界中で厳然と存在する課題である自然災害からの復興について考える。
- ・ 政府・NPO・個人ボランティアの役割についての議論を通し、自然災害との向き合い方を考える。

## 【企画内容】

本企画では、日本の事例を切り口に、各国が共通して抱える自然災害からの復興について考えた。有識者によるレクチャーと、学生を交えたディスカッションの二部構成であった。

復興庁で東日本大震災からの復興プランの策定に関わっている榎本英之様、NPO 人間の安全保障フォーラムの元代表としてかつ学者として復興に関わってきた内尾太一様、震災当時に福島に留学し、実際に被災されたサインブヤン オドバヤル様にパネルディスカッションをしていただいた。

パネリストに東日本大震災にどのように関わってきたのかについてレクチャーをしていただき、その後、政府・NPO・個人ボランティアのそれぞれの固有の役割についてパネルディスカッションを行っていただいた。質疑応答では、東大生・ハーバード生から、「NPO と政府の連携をよりスムーズにするためにはどうするべきか」「復興における会社の役割とは何か」など、様々な質問がされた。

昼食後、グループに分かれ、パネリストの皆様も交え、復興における政府・NPO・個人ボランティアの役割、今後自然災害が起きた際に自分はどう行動するか等を議論した。

## 【総括】

今年のテーマであった“Equality, Tolerance and Freedom: The Effect of Culture and Policy in a Globalized World” を考えるにあたり、日本に関連性の高いテーマを選びたい、ハーバード生に日本のリアルを伝えたいという思いから、自然災害からの復興というテーマを選んだ。震災というハーバード生にとってはあまり縁のないトピックだったため、問題意識を持ってもらえるか不安だったが、多くの質問が出て活発な議論が交わされた。まず、ハーバード生が東日本大震災について全く知らなかったことが衝撃だった。日本で起きる多くの地震の一つに過ぎないと思っていたことや、実際あまり大々的に報道されていなかったことを聞き、自分の周りに起きた出来事には当事者意識を感じることはできても、距離や時間的な隔りがある場合には難しいということを感じた。東日本大震災について話した後は、それぞれの被災経験を共有し、ハリケーンカトリナの話も交えて社会格差が復興格差に結びつくこと、それを防ぐために政府の取り組みを補完するのもNPO・ボランティアの重要な役割ではないかといったことが話し合われた。東日本大震災から

5年という節目の年で、国内でも大々的な報道が減るなか、ハーバード生とこのトピックについて話し合えたことは非常に貴重な機会であった。



### アメリカ大使館ハイランド首席公使主催 レセプション

【日時】 3月16日(水) 18:00-19:00

【場所】 アメリカ大使館ハイランド首席公使公邸

#### 【企画目的】

・ハーバード、イエール、東大、慶應など日米の学生が集い親睦を深める。

#### 【企画内容】

HCAPに所属する東大生及びハーバード生が、アメリカ大使館ハイランド首席公使主催の食事会に出席した。HCAPの学生のほかにも、日米の学生やアメリカ大使館の職員もいらっしやり、豪華な食事パーティーであった。参加者の中には、イエール大学のアカペラグループ Duke' s Men of Yale やイエール大学卒の落語家立川志の春さんもいらっしやり、圧巻のパフォーマンスを間近で見ることができた。その後は自由歓談で、日米の学生の交流が盛んにおこなわれた。



#### 【総括】

参加者のパフォーマンスや豪邸の華やかな雰囲気には驚きながらも、HCAPの学生は各々日米の学生と交流することができた。一方で、ハーバード大学とイエール大学の学生の中には互いに対抗意識を持つ者もあり、大学間の壁に東大生は驚かされた。また、学生の中には外交官を目指す者もあり、彼らはハイランド臨時大使やアメリカ大使館の職員の方とお話しして、外交官になった背景や学生のうちに学ぶべきこと等を聞くことができた。

特にイスラム教徒のハーバード生は、会場で用意されていたハラールミートを嬉しそうに食べていたが、宗教的に禁忌のほとんどない日本人にはその姿がとても新鮮に移った。ハーバード生がハラール対応の店が東京に非常に少ないということを感じていたことそこで気づかされた。

**ハーバード生 × 東大生 交流パーティー**

【日時】 3月16日(水) 20:30-22:30

【場所】 渋谷南口 G-style

## 【企画目的】

・日米のトップの大学であるハーバード大学と東京大学の学生の交流を促進する。

## 【企画内容】

HCAP に所属しない東大生や普段お世話になっている社会人の方々をお招きし、自由歓談をメインとした食事会を開催した。今年も多く of 学生や社会人の方々に参加していただいた。

## 【総括】

会場は終始和やかな雰囲気、ハーバード生と東大生は互いの学生生活や趣味の話をしたり、どの哲学者の思想に共感するかなどの真剣な議論をする場面もみられた。私たち運営側としては、普段キャンパスで共に時間を過ごす他の東大生とカンファレンスを経て親睦を深めてきたハーバード生を互いに紹介することができたこと、またお世話になった社会人の方々に私たちが作り上げた東京カンファレンスを少しの時間ではあるが共に体感していただけたことが意義深かった。HCAP Tokyo のメンバーと東大生が一緒になってビートルズの名曲を熱唱するなど、企画の盛り上がりもかなりのものを見せることができ、満足のいく時間が提供できた。参加者の中には食事を食べるのを忘れるほど歓談に熱中していた者もいたことは、この企画が成功に終わったことを示してくれているのではないだろうか、これもこの企画が成功に終わったことを示してくれているのではないだろうか。



**3月17日**

**東京フィールドワーク**

day6

【日時】 3月17日(水) 10:00-17:00

## 【場所】

Kawaii 文化：オリンピックセンター会議室、原宿一帯

渋谷再開発：ヒカリエ 11 階会議室、渋谷駅前再開発地下工事現場

## 【企画目的】

・都市での暮らしを形作る大きな要素である文化と都市基盤について、実際に当事者と話したり、街に出て現場を見たりするなどの体感型学習を通じて、都市における生活に改めて目を向け直す。



## 【企画内容】

Kawaii 文化：Kawaii 文化について、英語の Cute と日本語の Kawaii という言葉の感覚の違いなどを日本のジェンダー史等と関連付けたレクチャーと、原宿ファッションのモデルの方へのインタビューを行った。その後、実際に原宿の街に出向き、原宿ファッションを世界に発信し続けている Tokyo Fashion の方にガイドをしていただきながら個性豊かな服飾店などをめぐること、Kawaii 文化が原宿の街に根付いている様子を体感した。



渋谷再開発：2020 年東京オリンピックに向けて再開発が進んでいる渋谷駅周辺の工事現場について扱った。レクチャーでは渋谷の街を題材に、交通利便性や災害など都市の抱える課題に対する、都市基盤整備や再開発による解決策を学んだ。ヒカリエの 11 階にて将来の渋谷の街の模型と現状の街を見比べ、未来の街に想像を膨らました。また、一般公開されていない渋谷駅東口地下広場や地下貯留槽を見学し、都市計画の規模感を体感した。

## 【総括】

企画全体を通じて、参加者に大きなインパクトを与えるような体感型学習という目標を達成できた。原宿ファッションのモデルの方へのインタビューでは、多くの手が上がり、どうして原宿ファッションを始めたのか、何が自己表現を続けるモチベーションになっているのか、などの質問が出た。それらを通じ、別世界だと感じていた文化についても、背後にある心理には普遍的な感情や欲望があることを感じてもらうことができた。また、ハーバード生の中からは、日本にはどうしてオタク文化や Kawaii 文化など街ごとに独自の文化を形成されているのか、という疑問が上がり、日本の都市を捉え直すという意味でも刺激的な議論ができた。渋谷の工事現場見学では都市の中心部の、多くの人々が活動している真下で、大規模な地下工事が行われていることには参加者一同、驚嘆・感心している様子であった。数十年後の未来の都市生活を描き、何百、何千万人に影響を及ぼすような都市計画の規模感にはロマンがあって面白い、将来こういう仕事をするのもいいかもしれない、と言っていたハーバード生もあり、企画の醍醐味を十分伝えることができたと思う。

## 東京東部ツアー

【日時】 3月17日(木) 17:00-

【場所】 お台場海浜公園、デックス東京ビーチ、パレットタウン

## 【企画目的】

- ・ 東京湾沿いの町の魅力をハーバード生に感じ取ってもらう。
- ・ 築地市場の魚文化に実際に触れる。

## 【企画内容】

新橋からゆりかもめに乗車し、レインボーブリッジの横からの眺めを楽しんだ後お台場海浜公園でレクリエーションを行った。ニンジャゲームをしたり、10人でピラミッドを作ったりと全員が大

いに楽しめる時間となった。レクリエーション後はデックス東京ビーチ内の台場一丁目商店街で昭和の日本の雰囲気を感じ、東京テレポート内の大観覧車から東京の夜景を見下ろした。夜は大江戸温泉物語に宿泊し、日本の温泉文化を体験するとともに一日の疲れを癒した。翌日の早朝から築地場内市場のマグロ競り見学をし、朝食には卸されたばかりの新鮮な魚を使った海鮮丼をいただいた。

### 【総括】

東京フィールドワークに続き移動の多い企画だったためハーバード生だけでなく東大生も疲れていたようであったが、お台場海浜公園ではその疲れを気にもとめず全員が無邪気に走り回り、東京湾の眺めと雰囲気を純粋に楽しんでくれたようであった。この企画以外ほとんどすべての企画は東京の内陸部で行われていたので、東京東部の魅力を最大限に伝えることができとても良かった。

また大江戸温泉物語では、皆と一緒に風呂に入るのに最初は抵抗がある様子のハーバード生であったが、一度温泉につかってみるとその気持ちよさに心を奪われていたようだった。前日までのハードなスケジュールを考えて選択制の企画として用意していた築地マグロ見学も、「せっかく日本にいるのだから東京のすべてを体験して帰りたい」と言うタフなハーバード生達の希望により、ほとんど全員が参加をすることとなった。日本人でさえなかなか目にするののできない実際の魚市場の現場には誰も目が釘付けになり、その後睡魔に襲われながら必死に食べた新鮮な海鮮丼の味は忘れられないものとなった。



3月18日  
鍋パーティー



【日時】 3月18日(金) 21:00-23:00

【場所】 東京大学駒場キャンパス和館

### 【企画目的】

- ・ 鍋を共に食べることにより日本の食文化への理解を深める。
- ・ くつろいだ空間の中で実りある対話をする。

### 【企画内容】

東大生とハーバード生が集まっていくつかのテーブルで鍋を囲んだ。食材の調達や調理からともに行ったため、日本の鍋文化について理解を深めるとともに、親睦を深めることができた。また、鍋の種類を複数用意したため、ハーバード生は日本の鍋の多様さに感心すると同時に、それらの味も



堪能していた。

#### 【総括】

日本の食文化は寿司などを通じて既に体感済みのハーバード生であったが、鍋という料理は食事としての側面だけでなく、その空間も楽しむという魅力もあるということを感じ取ってもらえたようであった。9日目だからこそその親密感があり、普段の学生生活のことや将来の夢をたくさん語り合うことができた。本企画では、スーパーに連れて行き、食の日常風景をハーバード生に見てもらおうとかんがえていたが、時間の都合上、一緒に行くことができなかったことが反省点であった。

カンファレンスも終盤に差し掛かっていたので、途中で眠り始める者や食後にまだまだ元気があるため夜の渋谷に繰り出す者など様々であり、各自が思い思いに時間を過ごすことができた。

3月19日

鎌倉

day8

【日時】 3月19日（土）終日

【場所】 鎌倉

#### 【企画目的】

- ・お寺、庭園をめぐりながら、日本の侘び寂びの文化、日本人にとっての美意識を感じとる。特に、お寺の落ち着いた雰囲気、建物と自然の一体感を体験する。
- ・座禅体験を通じて日本人が古来より行っていた、自分の内面を真摯に見つめる方法を感じ取る。

#### 【企画内容】

はじめに、円覚寺にて座禅を体験した。近年海外にも広まりつつある禅の精神を、鎌倉の代表的な禅宗寺院である円覚寺にて座禅を通じて体感した。昼食後は報国寺に行き、庭園をまわった後、庭園内の茶室で静かな庭園を望みながら抹茶を頂いた。その後小町通りで買い物をし、高徳院の大仏を外から見学した。最後に由比ヶ浜にてハーバード生と花火やメッセージ交換を行い、共に過ごす最後の夜を楽しんだ。



#### 【総括】

一日を通じて、全員が充実した時間を過ごすことができた。座禅をもう一度行いたいというハーバード生や、抹茶をもう一度いただきたいというハーバード生がいたことから、日本文化を知ってもらいきっかけになったのだろう。座禅体験では、東京大学出身の和尚さんに、座禅の組み方や大切にしている精神などを丁寧に教えていただき、東大生もハーバード生も真剣に座禅に取り組んでいた。座禅を通じて心が穏やかになり、恋や勉強などの悩みが和らいだと述べるハーバード生もいた。報国寺では枯山水や苔のむした庭園を周りながら西洋の美意識と日本の美意識の違いに関

して話し合ったり、なぜ庭園の中で苔は美しく見えるのかを共に考えたりした。小町通りにて一時間ほど自由に食べ歩きをしたりお土産を買ったりしたが、高德院の拝観時間に間に合わなくなるほど、ハーバード生は日本のお土産探しに熱中していた。そして最後にハーバード生が東大生にお礼メッセージをくれるというサプライズもあり、花火と海に囲まれながら、全員が、「東京カンファレンスに参加してよかった」と感じていることが確信できる時間であった。



**3月20日**

**フェアウェルパーティー**

**day9**

【日時】 3/20(日) 13:30-15:00

【場所】 東京大学駒場キャンパス 和館

【企画目的】

・カンファレンス参加者が本カンファレンスの振り返り、そこで得た爪痕を共有する。

【企画内容】

本カンファレンス全日程を通して準備が行われていた「シークレットサンタ(プレゼント交換会)」、「フォトコンテスト」の結果発表を行った。プレゼント交換ではランダムに割り振られた相手に向け、その人に合ったプレゼントを秘密で用意するべく、参加者間で好きなものを尋ね合うことが行われており、交流のきっかけとなるものであったと感じた。フォトコンテストはカンファレンス中のふとした瞬間を切り取ることを目的としたもので、各人が個性を表現することができた。

その後、カンファレンス初日の集合写真を載せた写真ケーキを共に食べ、カンファレンスを振り返るムービーを鑑賞した後、空港へと向かった。

【総括】

「人生に爪痕の残るカンファレンス」を目標に本カンファレンスは組織、運営された。9日間を振り返るムービーの鑑賞では、印象的な場面に参加者から声上がり、空港にて記念品の寄せ書きを渡し、再会を誓う中で涙するハーバード生や東大生もいた事が、参加者にとって本カンファレンスが人生に位置づく、心に残るようなものであったことを示唆しているのではないだろうか。本企画だけでなく、ここに至るまで共に参加をした全ての企画、そして共に過ごした時間があってこそ、

最後に空港のゲートを挟んで幾度となく手を振りあい、別れを惜しみあった深く心に残る瞬間が訪れたのだと感じた。



## HCAP 東京カンファレンス 2016 総括

私たち HCAP 東京大学運営委員会 10 期は、「人生に爪痕を残すようなカンファレンスを作り上げる」ことを目標に掲げて一年間運営に携わってきました。漠然とした目標であるが故にカンファレンスの目的地、ゴールを見失うこともしばしばで、大変な苦勞をして参りました。

しかし本番は心の底からカンファレンスを楽しみ、またハーバード生も東京を心ゆくまで満喫してくれていたという実感があります。「爪痕」がどれほどくっきりと刻まれたのかは今はまだ知る由もありませんが、何気なく道を歩いている時の会話や、企画で見せる参加者の真剣な表情、また最後の空港での別れなど、少なくともこの一年の努力の痕跡を確かに刻みつけるように、このカンファレンスは私たちの心に残り続けると思っています。本年度のテーマ、“Equality, Tolerance and Freedom: The Effect of Culture and Policy on a Globalized World”についても、移民についての学術企画では各人のバックグラウンドについて正直に語り、また東日本大震災の話の時は自分たちに課されている責任とは何かということについてそれぞれの意見を正直に、しかし冷静にぶつけ合うことができました。ハーバード生との 10 日間は瞬く間に過ぎてしまい、空港での別れの際にはこみ上げるものもありましたが、それは言葉の壁を越えて心を通わせることができた証左であると信じています。易々と再会を誓うことができないほど隔たった場所でそれぞれが前へ進んでいくからこそ、東京での 10 日間は深い、濃密な思い出となったとも感じています。

もちろん成功ばかりではなく多くの失敗もありました。思い描いていたほど企画が盛り上がりなかつたり、一部体力的に厳しい予定となっていたことなど、負担がかかってしまう場面もありました。カンファレンス本番だけでなく、それまでの準備の面でも、チームで何かを運営すること、全員が主体性を持って取り組むことの難しさを痛感させられた一年間でした。「何でも自由にやっていい」と先輩方に言われ一年間の時間をかけて参りましたが、その機会を最大限に活用できたと自信を持って言うことはできません。もっとやれた、こんなはずではなかったという後悔の方が大きいかもしれません。

しかし、こういった失敗すらも教訓として次の一步を踏み出すことこそ、私たちに求められているのだらうと思います。次代に自らの体験を伝え、私たちの想定を上回ってくれるような一年間を過ごしてくれることを期待しながら、各人がカンファレンスで得たものを活かして今後の人生を歩んでいくことが大切です。将来私たちが世界に貢献できるような人材になり、そしてハーバード生と再会して「あのカンファレンスは今でも爪痕として残っているよ」と語り合えることを願っています。

最後になりますが、本カンファレンスの準備及び実行に協力して下さった全ての皆様に深い感謝を申し上げ、総括の結びとさせていただきます。

## HCAP 東京カンファレンス 2016 会計報告

## &lt;支出&gt;

項目	金額 (円)
企画費	717,442
食費	419,174
宿泊費	237,140
交通費	282,315
雑費	281,229
事務費	142,043
計	2,079,343

## &lt;収入&gt;

項目	金額 (円)
寄付金 株式会社ベネッセコーポレーション	1,400,000
寄付金 米国大使館	450,000
寄付金 駒場友の会	300,000
寄付金 HCAP Alumni	100,000
寄付金 株式会社プレジデント社	44,895
計	2,294,895

※会計支出内訳詳細は、別途関係者の皆様にお送りいたします。

※収支差額 (215,552 円) は来年度以降の活動に引き継ぎます。

以上